

先日、テレビでニュースを見ていたら、アメリカ中部で巨大な竜巻が起きた様子が映し出された。大きな渦になって迫りくる津波のような光景に、一瞬、息をのむ思いであった。わずか1分足らずのうちに土台からもぎとられた家々や倒壊した大きな工場など、すさまじい竜巻の力に人間はなす

よく「馬の背を分ける」というけれど、まさに通りを隔てて運不運が分かれることもあるだろう。以前、アメリカでお世話になった家には地下室があった。いまでも、地下室は竜巻のときに逃げ込むシェルターだったのだ。さて、自分が住む所で竜巻が起きたら、

## 人ごとでない竜巻

すべもなかったよ  
うだ。夜中に起きたことが多くの人命を奪ったよう

どこへ避難しようか。地下室はない。家内と思案した結果、外へ出て

で、異国の地ながら亡くなった方々に哀悼の意を表したい。

一番被害が大きかったというケンタッキー州に住む知人が心配になり、メールを送った。すぐに返事が来た。幸いに被害はなかったが、すぐ近くまで竜巻が迫り、雨風がすご

大木に体を縛り付けようか、それとも水道管にしがみつこうか、そうしないと一瞬のうちに空へ持っていってしまうかも、と話した。

## 点差

こうさてん

かったとのこと。間一髪で難を逃れたように、ほっとした。

日本でもこのような現象が起きる可能性もあるだろう。人ごとではない。地球上で起きている気候変動の怖さを垣間見た思いだ。

(安曇野市穂高、荻原義重、77歳)